

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.56

バスに一人で乗れますか？



先日、市役所へ登庁するのにも、かもめバス(路線バス)に乗りました。私の住んでいる安楽島からは「市役所前」にちょうど良い8時25分着の便があります。私がバス通勤するのは珍しいのですが、大事な大事な地域の公共交通なので、もっと率先して利用しなければと反省しきりです。

バスの中ではご年配のかたと一緒に、市内への観光客の戻り具合などの景況の話や、年金生活の暮らしぶりなど、バスを降りるまでの間、話が弾みました。

分散して集落がある鳥羽の中でこれまでと変わらさず暮らしていくには移動のための「足」であるかもめバスの存在も欠かせません。人口が減ってまちの姿がコンパクトになっても、その集落間の移動手段は確保していく必要があります。市ではその足を守ることを、移動販売車を走らせたりすることも含めて、「コンパクト

トナネットワーク」と呼んで対策にあたっています。



ところで色々な乗り物がある中で、路線バスが一番緊張する乗り物だと聞いたことがあります。慣れてしまえばなんてことはないのですが、まず、目的地がどの系統の路線にあるのかが分かりにくい。時刻表に曜日限定があったりして複雑。知り合いの多いまちでは停留所に立っているのがちよつと照れくさい。前から乗るのか後ろから乗るのか地域によって違う。料金がいくらなのか、それは前払いなのか後払いなのか。

交通系にカードは使えるのか：などなど。ごこのまちでも不安そうに何度も時刻表を確認している人を見かけます。ひと声かけてあげたいですね。

そして鳥羽のかもめバスは後ろから乗って前から降りる方式です。乗るときに整理券を取って、運賃は後払いです。キャッシュレスにも対応していて、乗るときに交通系にカードを「ピッチ」として、降りるときも「ピッチ」とします。当たり前のことですが、席に座るまで発車しませんが、席を立つて降車に向かうのはバスが完全に止まってからで構いません。昔に比べれば乗り降りするときの不安はまったくなくなりました。

月に数回から結構です。まずは近くの路線からかもめバスに乗ってみませんか？



ミジュマルバスに当たればラッキー！1日いいことがあるかも



Vol.213

教育委員会生涯学習課
☎ 1268

『人の世に熱あれ 人間に光あれ』(2)

『全国水平社創立百周年』

「人権とは、すべての人が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」、あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」のことで、日本国憲法で保障されています。人権は、私たちが社会において幸せな生活を営むために必要な固有の権利であり、人権の尊重は人類にとつて普遍的な原理です。しかし、今日の社会では、

同和問題(部落差別)をはじめとするさまざまな人権問題が依然として存在しています。差別や人権侵害の解決を阻んでいる大きな要因に「予断」と「偏見」があります。「予断」とは、真実を知る前に、過去の経験や知識などの範囲で、事実

を確かめないまま判断すること、「偏見」とは、十分な証拠も科学的な根拠もなく、思い込みや一方的に偏った見方、考え方をすることです。真実を確かめないまま、「他の人がこう言っていたから」「多くの人が言っているから」などと、予断と偏見で見ていることはないでしょうか。

誤った予断や偏見が、言葉や態度に表れたとき、その行為が差別につながります。そうやってしまわないために、また自分の中の誤った「予断」や「偏見」を振り返るためには、機会を見つけて同和問題(部落差別)をはじめとする人権問題についての新たな見方や考え方を知ることが大切です。

2016年以降、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法、アイヌ施策推進法が相次いで制定されました。このことは、私たちを取り巻く人権状況の深刻さを表しているといえます。だからこそ、今まで以上に積極的に「差別をなくす」立場で、また「私もあなたも差別をなくす当事者です」という意識で人権問題と向き合っていくことが大切ではないでしょうか。